

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

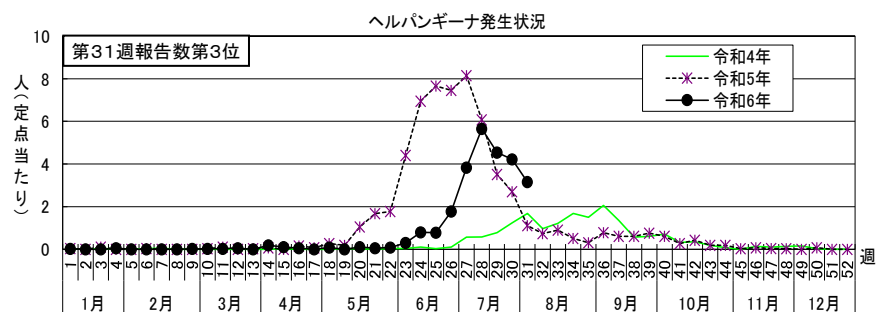
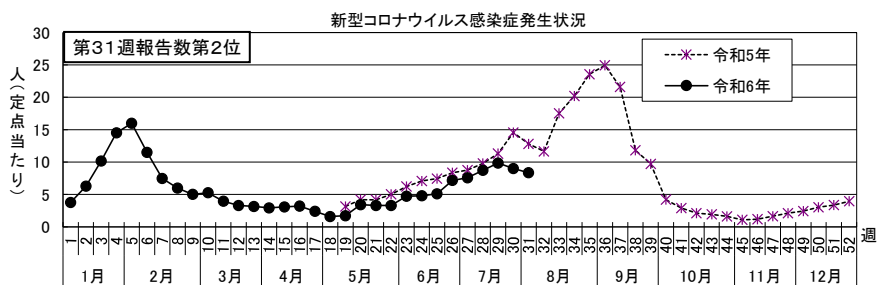
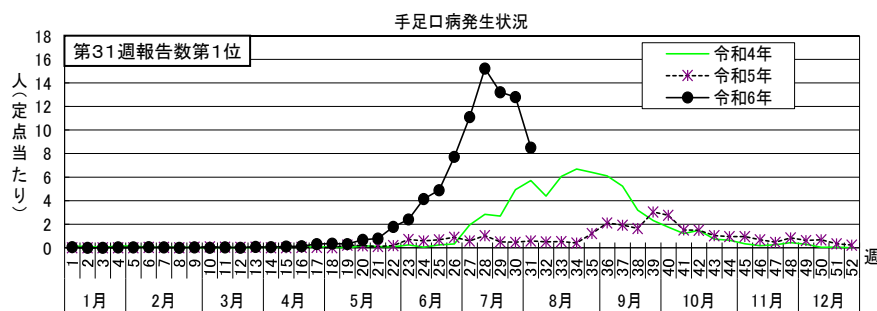
令和6年7月29日（月）～令和6年8月4日（日）〔令和6年第31週〕の感染症発生状況

第31週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）手足口病 2）新型コロナウイルス感染症 3）ヘルパンギーナでした。

手足口病の定点当たり患者報告数は8.51人と前週（12.81人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は8.35人と前週（9.00人）から横ばいでした。

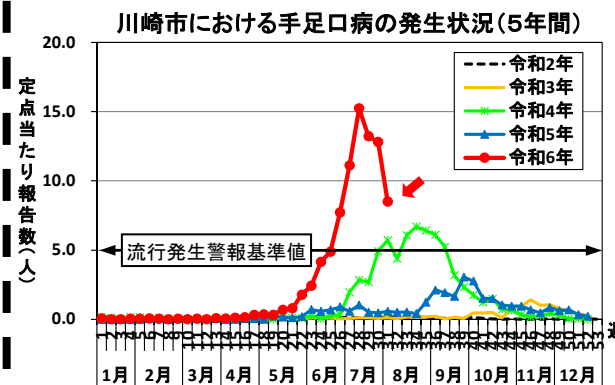
ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.16人と前週（4.22人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



手足口病～手、足、口以外の発しんにも御注意ください！～

川崎市では、6月下旬から手足口病の大きな流行がみられており、令和6年第31週（7月29日～8月4日）の定点当たり報告数は8.51人と減少したものの、依然として流行は続いています。

手足口病の典型的な症状は、手や足、口等にみられる水疱性の発しんです。主な病原体はコクサッキーウイルスやエンテロウイルスであり、令和6年に健康安全研究所に搬入された検体からは、コクサッキーウイルスA6型（CA6）が多く検出されています。CA6に感染すると、典型的な症状以外にも大腿部や臀部等に通常より大きな皮しんがみられることがあります。症状が似ている疾患もあるため、日頃から周囲の流行状況を確認するとともに、お子さんの体に皮しんがみられた際は、早めに医療機関を受診しましょう。



手足口病とは？

主な病原体：コクサッキーウイルスA6型及びA16型、エンテロウイルスA71型等

感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染

好発年齢：2歳以下が半数を占める。

潜伏期間：3～5日

典型的な症状：軽度の発熱、手掌・足底・足背及び口腔内の粘膜などに水疱性の発しん

※手足口病の発症後、数週間後に爪が剥がれ落ちる症例（爪甲脱落症）が報告されていますが、新しい爪が生えれば元に戻るとされています。